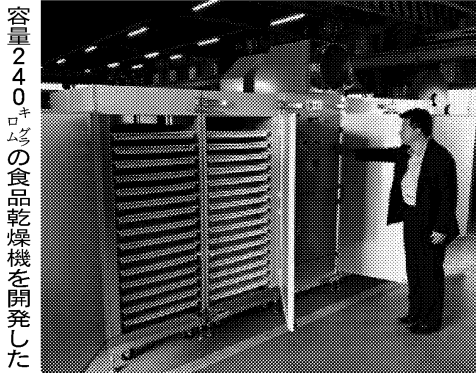


食品乾燥機 容量2倍

食品乾燥機メーカーの大紀産業（岡山市）は乾燥容量が240キログラムと従来機器の2倍の能力を持つ大型電気式乾燥機を開発した。国内産では最大規模だという。農産物を一度に効率よく大量乾燥できる強みを生かし、2019年2月にタマネギ生産が盛んな北アフリカのスーダンへの輸出を皮切りに国内外で需要を開拓。今後3年間で1000台の売り上げを目指す。



容量240キログラムの食品乾燥機を開発した

大紀産業、国内産で最大規模

まずスーダン

来年2月輸出

新製品は幅3・67メートル、奥行き1・28メートル、高さ2・31メートル。大容量でもムラなく乾燥できるよう、乾燥機の両側から温風が吹き出るようにするなど風の流れ方や流量のバランスを改善。吸排気口や制御盤を搭載した本体部分の流れ方や流量のバランスを改善。吸排気口や制御盤を搭載した本体部分



スーダンでは機器の納入に加えて加工方法の指導や販売支援も手掛ける

0キロワットを使用し、消費電力は37キロワットと120キロワットタイプの製品のほぼ2倍に抑えた。まず19年2月にスーダンに出荷し、その後国内や他国でも販売する。国内での販売価格は350万円程度を想定している。

大紀産業は10月、スーダンで農産物加工の普及・実証事業に取り組みるとで国際協力機構（JICA）や同国政府と合意した。20年10月までの2年間、スライサーや袋詰めの機器も合わせて輸出し、加工から販売までを支援する。この一環として首都のあるハルツム州、ナイル川沿いのバーナイル州に3台ずつ、計6台の大型食品乾燥機を納入する。同国の主要農産物であるタマネギは収穫量に比べて価格が乱高下する状況が続いており、乾燥加工で付加価値を高めることにより生産者の所得向上や廃棄処分減少につながる。外で天日干しにしないことで、作業時間の短縮に加えて紫外線の変色や砂利などの混入を防げる利点もある。

同社は15年、JICAの中小企業海外展開支援事業の採択を受け、スーダンに乾燥機1台を1年間無償で提供。18年春からは外務省の政府開発援助（ODA）事業を通じて、乾燥容量120キログラムの製品20台を出荷した。安原宗一郎社長は「他の州や個人などへ中小型乾燥機の普及の余地は十分にある」としており、今後はスーダン全土での販売を進める。当面は自社で手掛け、将来は機器のメンテナンスも含めた代理店契約を見据える。既に手掛けているベトナムやミャンマーなど東南アジアへの輸出も、商社経由から代理店契約に徐々にシフトする方針だ。

大紀産業は食品乾燥機で、3割強の国内トップシェアを持つ。18年12月期の売上高は5億5000万円の見込みで、2割弱を輸出が占める。23年12月期に2倍弱の10億円をめざし、輸出比率も3割に引き上げる方針だ。（沢沼哲哉）